九州大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは、九州大学病院を責任基幹施設とし、主に福岡市内・福岡市近郊に位置する九州大学病院麻酔科蘇生科の関連病院群で構成されている。

本プログラムの特徴は、豊富で多様な麻酔症例を経験することで麻酔専門医としてのゆるぎない実力を確実に醸成することである。次に、日々進歩している医療現場にあって最新の外科医療に即応できるハイレベルな麻酔専門医を育成することである。そして何より、患者への共感と仲間との協調性と社会人としての寛容性をもった人間性豊かな麻酔専門医を涵養することにある。本プログラムは、一般的な外科手術患者の麻酔管理、種々の合併症を有する患者、小児麻酔や心臓血管外科手術麻酔など高度で専門的な分野、更に、集中治療や救急医療、ペインクリニック、緩和ケアなど麻酔に関連する各分野での幅広い研修を提供する。本プログラム修了後には各専攻医が十分な麻酔科領域および麻酔科関連領域の専門知識と技量、刻々と変わる臨床現場における適切な臨床的判断能力と問題解決能力を備え、安全で質の高い周術期医療を提供し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができる麻酔科専門医に育つことができるようにする。

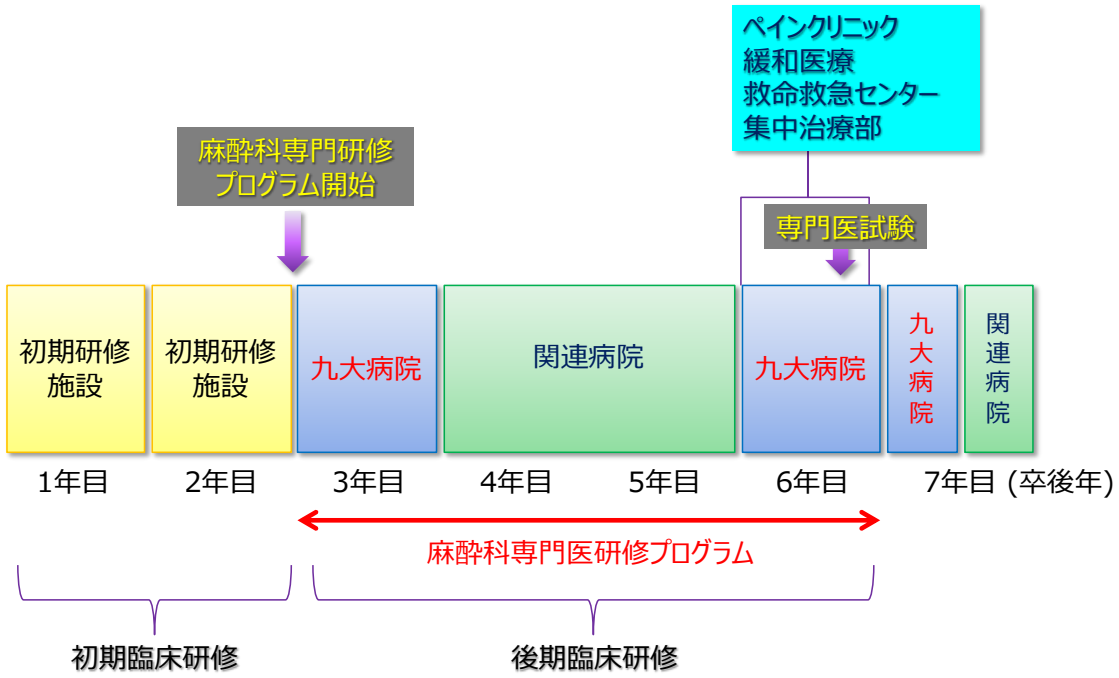
実施施設は、責任基幹施設である九州大学病院を中心とし、関連研修施設である国立病院機構九州医療センター、福岡市立こども病院、聖マリア病院、JCHO 九州病院、済生会福岡総合病院、浜の町病院、九州中央病院、福岡市民病院、福岡山王病院、国立病院機構小倉医療センター、九州大学別府病院、宗像水光会病院、福岡大学病院、佐賀大学病院、鹿児島大学病院、大分大学病院、千早病院、高木病院、飯塚病院、和白病院、中頭病院、藤元総合病院、済生会唐津病院から構成される。
責任基幹施設である九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。同時に集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど関連分野での研修もプログラムに含まれており、幅広い研修を行うことができる。
基幹研修施設や関連研修施設もそれぞれに特徴を持っている。例えば、福岡市立こども病院では小児麻酔、とくに先天性心疾患児の麻酔管理の集中的な研修を行うことができる。また、聖マリア病院、JCHO 九州病院は小児心臓手術、済生会福岡総合病院は多発外傷などの緊急手術、九州医療センターは成人心臓手術が多いといった特徴を持っている。鹿児島大学病院、大分大学病院では集中的に ICU での研修を行うことができる。施設群全体で総数約 50,000 件の症例数があり、各専攻医に十分な研修の機会を提供することができる。
麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に記されている。本プログラムでは、日本麻酔科学会の研修プログラム整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成するだけでなく、痛みの制御や急性期の呼吸・循環・神経の制御、そして蘇生法に関して理解を深め、治療や管理法に関する幅広い視野を持つことを目的としている。そのために、本プログラム修了後には大学院進学や海外留学などの機会も積極的に提供する。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 原則として研修の前半 2 年間のうち 1 年間、後半 2 年間のうち 1 年間は、責任基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮し、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要充分な特殊麻酔症例数を経験できるよう、ローテーションを構築する。
- 責任基幹施設である九州大学病院での研修では、心臓血管外科手術・移植等特殊な麻酔の研修に加え、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での研修も行う。
- 小児麻酔、特に先天性心疾患児の麻酔管理の研修のため、主に九州大学病院、福岡市立こども病院、JCHO 九州病院で研修を行う。

- 研修後半には、手術室運営の経験も積む。
- 女性医師の妊娠・出産・育児などの際には、それぞれの希望に柔軟に対応しつつ到達目標を達成できるよう研修をサポートする。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例11、12）、地域病院を中心としたローテーション（ローテーション例13、14、15）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。

研修実施計画例



研修実施計画例

	1年目		2年目		3年目		4年目	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
① 標準	九州大学	九州大学	九州大学	九州医療センター	JCHO九州	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	別府 or 佐賀大学 or 唐津
② 標準	九州大学	九州大学	九州医療センター	JCHO九州	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	別府 or 佐賀大学 or 唐津	九州大学
③ 標準	九州大学	九州医療センター	JCHO九州	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	別府 or 佐賀大学 or 唐津	九州大学	九州大学
④ 標準	九州医療センター	JCHO九州	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	別府 or 佐賀大学 or 唐津	九州大学	九州大学	九州大学
⑤ 標準	JCHO九州	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	別府 or 佐賀大学 or 唐津	九州大学	九州大学	九州大学	九州医療センター
⑥ 標準	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	別府 or 佐賀大学 or 唐津	九州大学	九州大学	九州大学	九州医療センター	福岡済生会
⑦ 標準	九州大学	九州大学	九州大学	九州医療センター	福岡済生会	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	九州中央病院
⑧ 標準	九州大学	九州大学	九州医療センター	福岡済生会	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	浜の町病院	九州大学
⑨ 標準	九州大学	九州医療センター	福岡済生会	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	山王病院	九州大学	九州大学
⑩ 標準	九州医療センター	福岡済生会	聖マリア	別府 or 佐賀大学 or 唐津	福岡市民病院	九州大学	九州大学	九州大学
⑪ ICU	聖マリア	聖マリア	九州大学	九州大学	九州大学	九州大学	北里大学 or 鹿児島大学	北里大学 or 鹿児島大学
⑫ 大分（ICU）	九州医療センター	九州大学	九州大学	九州大学	九州大学	大分大学 (ICU)	大分大学 (ICU)	聖マリア
⑬ 筑後	聖マリア	聖マリア	高木病院	高木病院	九州大学	佐賀大学	聖マリア	聖マリア
⑭ 北九州	JCHO九州	JCHO九州	九州大学	九州大学	小倉医療センター	小倉医療センター	別府 or 佐賀大学 or 唐津	JCHO九州
⑮ 宮崎	藤元総合病院	藤元総合病院	九州大学	九州大学	福岡済生会	聖マリア	聖マリア	九州医療センター

週間予定表

九州大学麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室（関連病院）	休み	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	手術室（関連病院）	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

九州大学病院

研修プログラム統括責任者:

山浦　健

専門研修指導医:

山浦　健（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
東　みどり子（麻酔）
神田橋　忠（麻酔）
白水　和宏（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
牧　盾（麻酔、集中治療、救急）
住江　誠（麻酔、心臓血管麻酔）
崎村　正太郎（麻酔、集中治療）
福徳　花菜（麻酔、緩和ケア）
石川　真理子（麻酔）
信國　桂子（麻酔）
水田　幸恵（麻酔、心臓血管麻酔）
浅田　雅子（麻酔、ペインクリニック）
石橋　忠幸（麻酔）
眞島　妙子（麻酔）
中村　侑里（麻酔）
渡邊　雅嗣（麻酔）
中野　良太（麻酔）
篠塚　翔（麻酔、ペインクリニック）
中島　考輔（麻酔）
高森　遼子（麻酔）
赤坂　泰希（麻酔）
坂田　いつか（麻酔）

専門医：

春田　怜子（麻酔）
吉村　美穂（麻酔）
上原　英梨子（麻酔）
福地　香穂（麻酔）
松山　優梨子（麻酔）
小佐々　翔子（麻酔）

認定病院番号：8

特徴：九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での幅広い研修を行うことができる。

②　専門研修連携施設

九州大学病院　別府病院
研修実施責任者：
瀬戸口　秀一（麻酔）
専門研修指導医：
瀬戸口　秀一（麻酔）

認定病院番号:1643

特徴：これまで外科（消化器・乳腺）と脊椎外科の手術に特化しており、手術室 2 部屋・病床数 104 床の病院でありながら年間 700 例前後の手術症例を行っていた。2024 年 3 月の新病棟開設により手術室は 3 室となり、これに合わせて整形外科は増員され婦人科の診療も再開している。
2025 年度の手術件数は 1076 件、そのうち麻酔科管理症例は 922 例でほとんどが全身麻酔で行われている。消化器外科では腹腔鏡手術などの侵襲度の低い手術から開腹肝切除術や膵頭十二指腸切除術などの侵襲度の高い手術まで幅広く行われており、乳腺外科では 2020 年度より乳房再建術が始まった。脊椎外科では内視鏡手術から多椎間におよぶ側弯症手術が行われている。また、別府市内に脊椎手術を行う病院が 2 カ所しかないこともあり脊椎疾患の緊急手術も増加している。頸椎症の患者も含まれ、頸髄保護のため気管支鏡を用いた気管挿管も行っている。2025 年度からは整形外科に下肢グループが加わり脊髄くも膜下麻酔や、下肢の神経ブロックを行う機会も増加している。
当院では、腹臥位手術・長時間手術・高齢者の全身麻酔管理といった様々な麻酔管理を学ぶことができる。

独立行政法人国立病院機構　九州医療センター（以下，九州医療センター）
研修実施責任者：
辛島　裕士
専門研修指導医：
辛島　裕士（麻酔，心臓血管麻酔）
甲斐　哲也（麻酔，ペインクリニック）
中垣　俊明（麻酔）
虫本　新恵（麻酔）
川久保　紹子（麻酔）
姉川　美保（麻酔）
河野　裕美（麻酔）
渡邊　麻美（麻酔）
濱地　朋香（麻酔）

認定病院番号：697

特徴：外科系の全診療科を有し、麻酔科専門医に求められる全ての領域の麻酔を経験することができる。グレードA（超緊急）帝王切開を含めて多くの緊急手術を受け入れており緊急への対応を身につけることもできる。また、心臓血管麻酔専門医認定施設であり心臓血管麻酔も多数経験することができる。術後鎮痛に配慮してエコーガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行しており、対象症例も多いため、神経ブロックも多く経験することが可能である。

社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院（以下，済生会福岡病院）
研修実施責任者：
吉村　速
専門研修指導医：
吉村　速（麻酔）
倉富　忍（麻酔）
福元　智子（麻酔）
阿部　潔和（麻酔）
八田　万里子（麻酔）
川崎　莉佳（麻酔）

認定病院番号：1043

特徴：済生会福岡総合病院は、病床数369床、手術室９室（うち1つはハイブリッド手術室）、年間手術症例数約4500件、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、福岡県災害拠点病院に指定されている、福岡市の中心天神地区に位置する中規模急性期総合病院である。
ハイブリッド手術室では、TAVI・TEVARをはじとする経カテーテル手術を全身麻酔科下で施行しているほか、ロボット支援手術システムを取り入れた高度先進医療も積極的に行い、難易度の高い術式や循環器系の重症合併症を有する患者の手術症例が数多く施行されている。
また、第 3 次救急救命センターを有しているため、緊急手術症例が多く、全手術件数の 20%以上が緊急手術で、胸腹部大動脈破裂・頭部外傷・消化管穿孔・多発外傷等の緊急手術に 365 日 24 時間対応し、地域の急性期医療の一翼を担っている。

地域医療機能推進機構九州病院（以下，JCHO九州病院）
研修実施責任者：
吉野　淳
専門研修指導医：
吉野　淳（麻酔）
芳野　博臣（麻酔）
松本　恵（麻酔）
今井　敬子（麻酔）
水山　有紀（麻酔、集中治療）
小林　淳（麻酔）
井村　一也（麻酔）

認定番号：257
特徴：北九州市西部を中心に遠賀・中間地域や直方・鞍手地域の地方急性期医療を担っている。超低出生体重児から高齢者まで、さらに成人先天性心疾患合併妊婦やハイリスク妊婦，循環器や呼吸器系に重篤な合併症を抱えた患者も受け入れている。特に小児循環器科では 九州北部・山口から広域に患者を受け入れており、手術症例も多い。このため、先天性心疾患手術は心室中隔欠損から単心室・複雑心奇形まで多彩である。成人心臓手術も多岐にわたり、弁膜症や冠動脈バイパス手術、急性大動脈解離や大動脈破裂など心臓血管専門医に必要な症例は全てカバーできる（2025 年度 320 例）。 JB-POT を有するスタッフは現在 6 名、心臓血管麻酔専門医は 4 名、集中治療専門医 1 名在籍している。手厚い指導体制で後期研修医のスキルアップをサポートする。ハイブリッド手術室での、ASD/PDA カテーテル閉鎖術や動脈瘤のステント手

術、大動脈弁置換手術の TAVI に加えて、2024 年度より左心耳閉鎖デバイス（Watch Man）も導入された。
また、地域周産期母子医療センターを併設しており、胎児診断を元に産婦人科・新生児科・麻酔科がチーム医療と相互サポート体制で計画的に治療を行い、周産期の産科麻酔・新生児麻酔の研修体制をバックアップする。無痛分娩も年間7例（2025年度）であるが開始した。
麻酔科管理症例は4089例で、6歳未満の麻酔症例数は259例（2025年度）であり、小児麻酔認定医への症例数は十分である。安全・安心な周術期管理を第一としつつも、末梢神経ブロック積極的に併用し、こどもたちにも多角的鎮痛により良好な鎮痛を目指している。
学会発表も積極的に行っており、これまでにはアメリカ麻酔学会や欧州麻酔学会、世界気道管理学会での発表実績がある。

社会医療法人雪の聖母会　聖マリア病院（以下，聖マリア病院）
研修実施責任者：
島内　司（麻酔）
専門研修指導医：
島内　司（麻酔）
藤村　直幸（麻酔・救急・集中治療）
自見　宣郎（麻酔）
坂井　寿里亜（麻酔）
佐々木　翔一（麻酔）
井手　朋子（麻酔）
犬塚　愛美（麻酔）
高口　由希恵（麻酔）
前田　愛子（麻酔）

認定番号：483

特徴：当院は、救命救急センター、総合周産期母子医療センターを併設している地域中核病院である。救急医療に主軸を置く当院では、24 時間 365 日患者さんを受け入れており、新生児から高齢者まで数多くの症例を経験できる。年間麻酔科管理症例数が約 5000 例あるため、麻酔科専門医取得に必要な症例は、当院で全て経験することが可能である。
当院の麻酔の特徴としては

① 整形外科手術、呼吸器外科、外科、小児外科、形成外科に対しては、超音波ガイド下末梢神経ブロックを用いた麻酔管理や術後疼痛管理を積極的に行っている。
② 小児の麻酔症例が多いのが特徴である。6 歳未満の小児の手術件数は年間 400 件を超えている。
③ 心臓血管外科手術は、胸部大血管手術や弁置換術に加え、EVAR など低侵襲心臓大血管手術を経験できる。
④ 形成外科が、口唇口蓋裂、頭蓋縫合早期癒合症など先天異常に対する治療を積極的な行っているため、気道確保困難が予想される Treacher Collins Syndrome や Pierre Robin Syndrome などの症例を経験できる。
⑤ 福岡県南の産科医療の拠点であり、ハイリスク妊婦の麻酔を数多く経験できる。帝王切開の手術件数は年間 250 件前後である。
⑥ 外科、脳神経外科、整形外科、形成外科の緊急手術が多いため、緊急手術症例対応に必要な知識と技術を取得できる。
⑦ 日本でも有数の股関節・大腿近位の骨折の治療実績を誇り、脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔の手技を多く経験できる。

地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市立こども病院
研修実施責任者：
水野　圭一郎
専門研修指導医：
水野　圭一郎（麻酔）
泉　薫（麻酔）
住吉　理絵子（麻酔）
藤田　愛（麻酔）
小栁　幸（麻酔）
伊藤　恵（麻酔）
百瀬　未来（麻酔）

認定病院番号：205

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月 30〜50 例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能。地域周産期母子医療センターであり、超緊急を含む帝王切開や双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術の麻酔管理も経験できる。外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用い

ている。急性痛治療にも力を入れており、麻酔科主導で硬膜外鎮痛や PCA を管理している。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

国家公務員共済組合連合会　浜の町病院（以下，浜の町病院）
研修実施責任者：
加治　淳子
専門研修指導医：
加治　淳子（麻酔）
谷口　省吾（麻酔）
藤本 鮎美（麻酔）
竜田 ちひろ（麻酔）
福岡　玲子（麻酔）
東 晶子（麻酔）

認定番号：258

特徴：当院は 2013 年より新病院に移転し、整った環境で診療を行っている。当院では心臓血管外科以外の手術はすべて実施されており、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、整形外科、泌尿器科、脳外科、形成外科、婦人科、産婦人科と症例は多岐にわたる。手術室は 9 室（バイオクリーンルーム 2 部屋、陰圧室 1 部屋）で運営しており、各種電子記録システムや映像記録支援システム、中央監視システム等の設備が整っている。各手術室映像、生体モニターは麻酔科スタッフルームから常時監視されており、早期に危険を回避してより高度な安全を確保することが可能となっている。婦人科の内視鏡手術が多いことが当院の特徴で、初期研修医は、一日に 2−3 症例の 気管挿管等の気道確保手技および全身麻酔管理が経験できる。研修を通して、気道管理ガイドラインや薬剤知識、全身状態に問題がある患者の術前評価の仕方などについて理解を深めている。研修期間終了までに、病棟/外来 での気道確保ができるようになること、また術中の全身管理を学ぶことを目標としている。後期研修医は、硬膜外麻酔などの手技や、呼吸器外科、肝切除、脳外科手術の麻酔など、後期研修で習得すべき麻酔管理やロボット支援内視鏡手術の麻酔管理を研修できる。九州大学病院麻酔科医局主催の月例カンファレンス等の勉強会、研修医説明会への参加、および麻酔科学会への参加も奨励している。

公立学校共済組合　九州中央病院　（以下，九州中央病院）
研修実施責任者：
藤吉　哲宏
専門研修指導医：
藤吉　哲宏（麻酔）
松角　貴子（麻酔）
三浦　玲子（麻酔）
山本　美佐紀（麻酔）
木村　真実（麻酔）
山田　千晶（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

認定病院番号：0050

特徴：2025 年度の麻酔科管理症例数は約 3400 件で、消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、血管外科、乳腺外科、整形外科、脊椎外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、婦人科、皮膚科、眼科、形成外科の手術麻酔を行っている。福岡市南部とその近郊地域の拠点病院の一つとして、多くの手術麻酔を担当し手術症例数は年々増加している。内科系診療科がある総合病院として、高齢者や併存疾患をもつ多くの患者さんが手術のために近隣病院から紹介されてくる。特に消化器外科や整形外科で、多くの併存疾患を持つ高齢者の急患手術が多いのも当院の特徴である。麻酔では区域麻酔の中でも特にエコーガイド下末梢神経ブロックに積極的に取り組んでいる。

医療法人社団高邦会　福岡山王病院　（以下，福岡山王病院）
研修実施責任者：
中山　徹三
専門研修指導医：
中山　徹三（麻酔）
八島 典子（麻酔、ペインクリニック）
村上 祐子（麻酔）
稲井 聡子（麻酔）
谷村 典弥（麻酔）
坂本 聖子（麻酔）
梅村 理恵（麻酔）
原 温子　（麻酔）
中山　昌子（麻酔）

認定病院番号：1465

特徴：当院は、福岡市早良区百道浜に位置し、199 床の病床をもち、全室個室で、ハートリズムセンター、バースセンター、リプロダクションセンター、関節外科センターなど先進的な医療と、質の高い医療、特徴ある医療を国内、国外の患者さんに提供している。麻酔は、婦人科手術を中心に、脳外科手術、整形外科手術、それに帝王切開術を多く経験できる。また、特徴的なところでは無痛分娩を多く手掛けており、産科医療に麻酔科医が積極的に参加している。

地方独立行政法人　福岡市立病院機構　福岡市民病院
研修実施責任者：
髙森　信乃介（麻酔）

認定番号：579

特徴：当院は福岡市の中心部に位置し、主に消化器・肝臓外科、整形外科（特に脊椎）の手術を中心に、年間約 900 症例の手術を麻酔科が管理している。その他にも血管外科や脳外科手術がある。透析患者や虚血性心疾患患者の手術も多くあるため、循環管理、呼吸管理、輸液管理等を含めた全身麻酔管理を習得することが可能である。また術後鎮痛にも積極的に取り組んでおり、硬膜外麻酔や神経ブロックの研修をすることができる。

医療法人社団水光会宗像水光会総合病院　（以下，宗像水光会病院）
研修実施責任者：
川崎　俊宏
専門研修指導医：
川崎　俊宏（麻酔）
甲斐　陽一郎(麻酔)

認定病院番号：910

特徴：当院は 2025 年度 1756 例の麻酔を依頼され、小児の麻酔が 5 例、脳外科の手術が 12 例、心臓血管外科の人工心肺を使用した手術は 11 例であった。

全体の約半数は脊髄クモ膜下麻酔であり短時間手術である。外科、泌尿器科、整形外科症例が多く、全体的に高齢者患者主体の麻酔になっている。ロボット手術が今後、泌尿器科、婦人科、外科で行われる。

国立病院機構　小倉医療センター（以下，小倉医療センター）
研修実施責任者：
趙　成三（麻酔）

認定病院番号：605

特徴：地域周産期母子医療センターに指定されており、産科医師や新生児科医師と協力しながら、産科症例や新生児の手術を行っている。2025年度は、帝王切開術は323例、小児麻酔195例であった。また、精神科病棟が50床あり、精神神経疾患を有する患者の手術も多く、電気痙攣療法の麻酔管理も行っている。小児症例においても仙骨硬膜外麻酔や超音波ガイド下神経ブロックを積極的に取り入れている。

社会福祉法人恩賜財団済生会　済生会唐津病院
研修実施責任者：
中川　拓（麻酔）

認定病院番号：1507

特徴：当院は佐賀県唐津市周辺地域の急性期医療を担っている、193 床の中規模病院である。内科、循環器内科、外科、整形外科、脳外科などの診療科があり、地域に根ざした医療をチームワークよく行っている。手術を受ける患者は高齢者が多く、70 歳以上の患者が約 6 割となっている。令和 7 年度の麻酔科管理症例数は 624 例であり、経験必要症例分類では胸部外科が 39 例、脳神経外科が 28 例、心臓血管外科（２群）が 16 例であった。手術症例数や手術内容は豊富ではないが、基本的な麻酔技術の習得は可能である。

医療法人社団高邦会　高木病院　（以下，高木病院）
研修実施責任者：
髙松　千洋（麻酔）

専門研修指導医:
髙松　千洋（麻酔）
三角　正氣（麻酔）
八板　信介（麻酔）

認定病院番号:1632

特徴：
福岡県南部の大川市に所在する地域医療の中核を担う総合病院であり、緊急手術も多い。麻酔科専門研修で特殊麻酔とされる開心術・開頭術・胸部外科・帝王切開・小児の手術症例なども含めて万遍なく経験することができる。
医療系の教育施設も併設していることから、パラメディカルスタッフを含めたチーム医療の実践について学ぶ機会も多い。

社会医療法人財団池友会　福岡和白病院　（以下，和白病院）
研修実施責任者：
冨永　昌宗
専門研修指導医：
冨永　昌宗（麻酔）
濱田 孝光（麻酔）
藤井 高宏（麻酔）
岡澤 美菜（麻酔）

認定病院番号：1045

特徴：当院は、地域支援病院及び地域がん診療連携拠点病院の指定を受け地域医療に貢献しさらに、高度急性期医療を目指している病院である。病床数は急性期病床３４３床、回復期リハビリテーション病棟２６床の計３６９床である。心臓血管外科（開心術、血管内治療ステントグラフト、TAVI、Watchman、PVL 閉鎖、僧帽弁逆流防止クリップ）、一般外科、脳神経外科、ロボット支援手術（泌尿器科、外科、呼吸器外科）が行われ、定例手術以外でも外科系各科にまたがる重症外傷などの緊急手術が多いのが特徴である。６歳未満の小児の症例は少ないものの、手術対象年齢は小児から高齢者まで、幅広い年齢層の手術が行われている。最近では、エコーガイド下の末梢神経ブロックを併用した麻酔も盛んに行っている。

国家公務員共済組合連合会　千早病院　（以下，千早病院）
研修実施責任者：
冨永　昌周（麻酔）

認定病院番号:902

特徴：当院では外科・整形外科・眼科の手術が例年 1100 例程度行われており、そのうち麻酔科管理症例が 500 例前後である。外科では腹腔鏡手術が主に行われており、整形外科では THA や TKA などの人工関節置換術に加え、骨折の手術も多く行われている。福岡市の中で人口の多い東区に位置しており、高齢者の手術が多い。高度な医療機器には恵まれていないが、基本的な麻酔管理や麻酔手技を学ぶことができる。

株式会社麻生　飯塚病院
プログラム統括責任者：
尾崎 実展
専門研修指導医：
尾崎　実展（麻酔）
内藤　智孝（麻酔）
田平　暢恵（麻酔）
鵜島　雅子（麻酔）
濵井　優輔（麻酔）
満田　真吾（麻酔）

認定病院番号：　539

特徴：当院は救命救急センター、福岡県総合周産期母子医療センターに認定されており麻酔科は超未熟児を除くほとんどすべての緊急手術に対応している。
また地域がん診療連携拠点病院であり、幅広い悪性腫瘍の手術を行っているが肝胆膵手術、肺手術の症例数が特に豊富である。
心身合併症センターを運営しており、精神疾患で周術期管理困難と思われる近隣患者の受け入れも行っている。
開心術、TAVI、大動脈手術（開胸･開腹およびステント留置）、重症下肢虚血血行再建など心臓血管外科領域での幅広い手術を行っており、心臓血管麻酔専門医認定施設である。

藤元総合病院　（以下，藤元総合病院）
研修実施責任者:
栫　智彦（麻酔）
専門研修指導医:
栫　智彦(麻酔)
滝川 道四郎（麻酔）

認定病院番号：1146

特徴：宮崎県都城市に位置し、消化器・肝臓外科、心臓血管外科、脳神経外科の手術をはじめ様々な外科系手術を行なっており、麻酔科研修に必要な症例を経験することが可能である。又、多角的な視点で病態をとらえ、安全で良質な全身麻酔管理を行うために必要な知識と技術を習得することが可能である。

社会医療法人敬愛会　中頭（なかがみ）病院　（以下，中頭病院）
研修実施責任者：
高橋和成
専門研修指導医：
高橋和成（麻酔）
上川務恵（麻酔）
花城亜子（麻酔）
兼村大介（麻酔）
平田友里（麻酔）
専門医：
清水友理（麻酔）

認定病院番号：1007

特徴：当院は沖縄県中部にある、病床数355床の急性期総合病院である。診療科は一般外科、呼吸器外科、整形外科、脳外科、心臓外科、産婦人科、形成外科、耳鼻科などを有している。経験できる症例は多岐にわたり、後期研修に必要な症例は全て網羅することができる。救急・集中治療部門も充実しているので、研修中にローテーションすることも可能である。

福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：

秋吉　浩三郎

専門研修指導医：

秋吉　浩三郎（麻酔、心臓血管麻酔、緩和ケア）
重松　研二（麻酔、集中治療）
柴田　志保（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
佐藤　聖子（麻酔、産科麻酔、小児麻酔）
三股　亮介（麻酔、心臓血管麻酔）
外山　恵美子（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
富永　将三（麻酔、産科麻酔、小児麻酔）
南原　菜穂子（麻酔、集中治療）
山田　宗範（麻酔、心臓血管麻酔、集中治療）
中西　洋太朗（麻酔、集中治療）
越智　麻衣子（麻酔、産科麻酔）
原　仁美（麻酔）
松岡　采花（麻酔、産科麻酔）
渡嘉敷　綾音（麻酔、産科麻酔、集中治療）
松本　志緒里（麻酔、心臓血管麻酔）
丸田　弦（麻酔、心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：92

特徴：年間 8000 例以上の手術症例数、約 7000 例以上の麻酔科管理症例がある。症例数は豊富で、麻酔科専門研修に必要な症例はすべて経験することができる。施設としては、移植手術（脳死および生体肺移植術、腎移植手術）、心大血管手術や外傷手術などの緊急手術を多く経験できることが特徴である。麻酔管理では、超音波ガイド下の末梢神経ブロックを数多く行っている。また、術後疼痛管理チームを立ち上げて術後の疼痛管理に積極的に取り組んでいる。周術期管理センターでは看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し、全身状態の評価を入院前から行っている。麻酔科医が主体となって集中治療室(GICU)を運営しており、周術期を通した全身管理の他，肺炎などの内科疾患も学ぶことができる。ペインクリニックでは急性痛･慢性痛に対する薬物療法や神経ブロックを経験できる。緩和ケアではチームの一員としてがん患者とその家族の身体的・精神的苦痛を和らげる支援をしている。その他、神経ブロックを始めとする各種講習会や研修会を定期的に開催しており、様々な資格・認定を取得することが可能である。2025 年より新病院となり、より快適な研修環境を提供している。

鹿児島大学病院

研修プログラム統括責任者：

松永　明（麻酔）

専門研修指導医：

松永　明（麻酔、心臓血管麻酔）
五代　幸平（麻酔）
中原　真由美（麻酔，集中治療）
山田　知嗣（麻酔，区域麻酔）
向原　桂香（麻酔）
内野　えりか（麻酔，集中治療）
針持　想（麻酔，心臓血管麻酔）
萩原　信太郎（麻酔，ペインクリニック）
櫻井　絵里（麻酔）
鬼塚　一聡（麻酔，産科麻酔）
西藤　智照（麻酔，小児麻酔）
野田　美弥子（麻酔，緩和）
大徳　晋久（麻酔，区域麻酔）
河野　朱美（麻酔）
東　亮子（麻酔）
黒木　千晴（麻酔）
下之薗　莉瑛子（麻酔）
新地　直子（麻酔）
佐藤　朋世（麻酔）

認定病院番号：56

特徴：ペインクリニック、集中治療のローテーション可能である。
　　すべての特殊症例の経験が可能である。大学院での研究も可能である。

大分大学医学部附属病院

研修プログラム実施責任者：

松本 重清

専門研修指導医：

松本 重清（麻酔、集中治療）
新宮 千尋（麻酔）

内野 哲哉（麻酔）
安部 隆国（麻酔、集中治療）
小山 淑正（麻酔、集中治療、心臓麻酔）
大地 嘉史（麻酔、集中治療）
甲斐 真也（麻酔、集中治療、心臓麻酔）
中野 孝美（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
佐々木 美圭（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
栗林 由英（麻酔、集中治療）
小坂 麻里子（麻酔、集中治療、心臓麻酔）
池邉 朱音（麻酔）
深野 菜摘（麻酔）
小林 朋暉（麻酔）

麻酔科認定病院番号：237

特徴：麻酔管理だけでなく、周術期管理医学として、集中治療やペインクリニックの教育にも力を入れている。希望者は緩和ケアチームへのローテーションも可能。

佐賀大学医学部附属病院　（以下，佐賀大学病院）
研修プログラム統括責任者：
坂口　嘉郎
専門研修指導医：
坂口　嘉郎（麻酔，集中治療）
山田　信一（ペインクリニック・緩和ケア）
冨田　由紀子（麻酔）
谷川　義則（麻酔，集中治療）
中川内　章（麻酔，集中治療）
山下　友子（集中治療）
中村　公秀（麻酔，集中治療）
久我　公美子（麻酔）
天本　啓介（麻酔）
平松　史帆（ペインクリニック・緩和ケア）
野口　洋（麻酔）
松林　佑亮（麻酔）
専門医：

力武　千晶（麻酔）

認定病院番号　238

特徴：佐賀大学病院では豊富で幅広い手術が行われ、ロボット支援下手術やハイブリッド手術室での血管内治療など高度で先進的な手術、合併症を有する重症患者の手術も多い。専門研修に求められる多様な麻酔症例、手技を十分に経験できる。ペインクリニック、集中治療の研修も可能である。

5.　専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2025 年 9 月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、九州大学病院麻酔科専門研修プログラム website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

九州大学病院　麻酔科蘇生科　　医局長　水田　幸恵
福岡県福岡市東区馬出3-1-1
TEL 092-642-5714
E-mail: masuika@med.kyushu-u.ac.jp
Website:　https://www.kuaccm.med.kyushu-u.ac.jp/resident/program.html

6.　麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

1）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
3）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修２年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。 研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することがで

きる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、国立病院機構九州医療センター、JCHO 九州病院、済生会福岡総合病院、飯塚病院、九州中央病院、福岡市立こども病院、福岡市民病院、福岡和白病院、聖マリア病院、国立病院機構小倉医療センター、浜の町病院、高木病院、福岡大学病院、佐賀大学病院、鹿児島大学病院、大分大学病院、中頭病院、藤元総合病院、済生会唐津病院、九州大学別府病院などが地域医療支援病院として含まれている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

各研修施設には十分な指導医と指導体制が整っているが、指導体制が十分でないと感じられた場合、専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接、文書、電子媒体などの手段によって報告することが可能である。研修プログラム統括責任者および管理委員会は、研修施設およびコースの変更、研修連携病院からの専門研修指導医の補充、専門研修指導医研修等を検討する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。